

# 公民館だより

54-12 良館  
由公民館

## 公德心を高め

### 個人も社会も幸せに

館長 藤本秀雄

今年の夏、中央公民館の横の駐車場に、ごみ籠を二ヶ置いて一方には燃えるもの他方には燃えないものと書いておきました。が、実際には燃えるものと燃えないものと無茶無茶に入れられておりました。少しも片付ける者の身になつていません。しかし籠に入れる方はまだ良い方で、自転車の去る三跡に空缶やビニール袋が散乱している状態でした。

このごみが自分の目には見えないやうにすればいいという感覚は人間の心の中にもうしても自分中心の考え方が正倒的に強いからです。即ちごみを平気で捨てるのは他人のことを考えていないのです。

又先日鵜の公園に行き公衆便所を見守りました。国道側の壁に大きな落書きがしてあってびっくりしました。こんなことを自分の家だつたら誰かするでしよう。

ほんとうに日本人は公德心が低いと思います。尚、国道沿線には空缶やビニール袋が相変わらず捨てられていて、汚いし、附近の農家は仕事の上にも迷惑しています。ところが十月初め、石浦の国道を教人の方が大きな袋に捨てられた空缶を一つ一つ拾って入袋には、自動車に集結しておられるのを見て大変嬉しく感じました。

## 公民館所感

主事 平間克巳

今年度の公民館行事もあと僅かに残すのみとなった。省りみて今後の参考にしたい。

一、由良岳登山 四月二十九日

年々に登山者が殖え喜ばしい。中には他所の友達を招待し登山する組、又去年同様、四つをむすかり江きながら登った三子供も今年には元気に登った。

いつも感じる事は、この由良岳登山は母が子に、或る時は叱咤し、或る時は激励し、共に苦しむながら頂上を極める。運命共同体であり、これこそ家庭教育神髄の場であるように思う。又下山の際は皆でゴミ紙屑類を袋に入れ持って降りた。途中、京都からの登山者がこれを見て、指ささして感じてくれたのが印象的だった。

二、盆行事 八月十五日

(A) 球技大会

## 優勝

オ三部

1. 総合優勝

オ二部

2. 準優勝

オ三部

3. 四部対抗リレー 健在振りを知り

由良地区の皆さんが年一回の運動会に参加し、

四、史跡めぐり 十一月四日

文化部長の中田俊夫氏の御案内により、奥丹後一円の文化財の宮、寺を見学し、遠い祖先が残してくれ文化財の流れ、背景等多くの知識を得ました。



## 寄付

- 一、金三〇〇〇円(運動会)無鷲信用金庫 塩根武様
- 一、マッチ二〇〇個(運動会)由良支店長 吉田親夫様
- 由良支店長

一昨年の事故を教訓として、今年もムラドールゲームで行った。然しこれも時間的は無理が生じた。それは審判員の昼食が取れない事で、来年は終了時間を延長しても昼食時間を取るよう計画する事。又試合中思いがけず選手達の怪我が出た。青年男子軟式野球の試合中であつた。幸い傷も浅く即日見舞に伺つたが本人は元気であつた。その後も後遺症もおこらず、傷口の全治も暫時快方に向うことがわかり安堵した。

## 優勝

オ三部

(1) 一般男子ソフトボール

オ四部

(2) 青年男子軟式野球

(B) 盆踊 八月二十三日  
今年初めて盂蘭盆に行われた。踊る人も去年の倍以上の集りであつた。これも宮本青年会が自発的に協力して頂いてお蔭です。

改めて宮本青年会に厚くお礼申し上げます。今後の御活躍を祈ります。尚老友会、婦人会の役員の方々が率先して踊りを盛りあげて頂いて、厚く御礼申し上げます。今後も祖先が残してくれたい文化財を守り続けねばならないと思ひます。

## 三、地区大運動会

九月二日

今年の運動会の開催日が早かつたので、公民館の幹事さんには盆行事に引き続き数回の部会で、多忙ながらも暑い最中にもかかわらず心よく部会に御出席願ひ、準備万端スムーズに運びました。この苦勞も運動会場で競技に真剣に打ち込んでいらる地区の皆さんの姿を見ると、一遍に消し飛んでしまふ。この日も思いがけない怪我をさし出された。団体競技で二回のみリレーの時、最終ランナーを走行中肉付な足を左足にさして、脱落された。御本人には誠にお気の毒で、相当に痛んを尋と思ひます。その後順調に快方に向ひ此何れを望みます。

# 第一回ふるさと教室について (ハム民館)

○日時 十月十九日、午後七時三十分  
 ○場所 由良小学校裁縫室  
 ○出席者

- 府教委 久古先生
- 市教委 室田係長、堀口主事
- 由良小学校 角尾校長、井村教頭
- 栗田中学校 上野校長、小倉先生
- 由良自治連合会長 中田 孫兵衛氏
- 栗田自治会長 岡本 文蔵氏
- 栗田自治会長 田中 由雄氏
- 由良小学校教育友会長 山下 伊左衛門氏外二名
- 由良婦人会長 中田 昭子氏外二名
- 宮本青年会 小松 賢輔氏外一名
- 公民館文化部長 中西 俊夫氏外二名
- 以上 二十名

第一回は参加者の皆さんから、日常の生活実態の中の問題点を話し合ってもらった事にして、聞きました。

- ▼由良小学校
  - (1)物を大切にすることを欠けている。
  - (2)挨拶がまだ一歩足りない。
- ▼栗田中学校
  - (1)仕事の分担がうまくないが、協調とか手伝うということが欠けている。
  - (2)物を散らかす子供は、掃除をしない。

- (3)物を大切にしない、従って落し物を取りにこない。
- (4)子供の中には
  - (一)言われなくとも、する子
  - (二)言われたら、する子
  - (三)言われなくても、しない子
 の三つの型がある。

▼婦人会  
 1.生活の合理化を取り組んでいるが、実行がむづかしい。子供が物を大切にしないのは生活の合理化が生活の中に浸透してないからだと思う。  
 中田婦人会長より  
 見舞返し全廃の何がきを出した。平間さんも実行されたが、実状を聞くと外の人から見舞返しを持って来たりしられるので困ると言っておられる。何とか皆さんで、見舞返し全廃の実行は出来ないだろうか。

ここに参加している人だけでも実行してもらえば、見舞返し全廃の風習が由良全体に広がると思う。この問題は親だけの力でなく、この良風も実行する事になり、子供にも生きを教訓となつて、人間的に大きく成長するのではないだろうか。  
 自治会、公民館名簿の何がきを発行してもらつて、(勿論見舞返し)の主旨の何がき(は)どろか等の意見が出た。

山下伊左衛門由良小学校教育友会長  
 今回小学生を対象として、「少年野球クラブ」を作った。野球をする事により、少年の心身を鍛え、過保護にならないよう、自立心を起す子供になる事になる。  
 中西自治連合会長

NO.2

大人と子供が話し合う「声かけ運動が必要」  
 石浦地区の子供達がよく挨拶するとの評判である。小さい部落の子は大人の顔をよく知っている。挨拶の実行が可能である。だから小さなスロツクから抜けて行くといふ。その習慣が続けば中学生になつても、挨拶するようになる等、貴重な発言があった。

## 第三回 史跡めぐりを終えて

公民館の年中行事の一つとして行つておりました「文化財めぐり」を本年も(第一回、市内文化財めぐり、第三回、由良川西岸史跡めぐり)に引き続き、第三回史跡めぐりとして去る十一月五日実施しました。

今回は「せんご」歴史伝説をたぬる」といふことで、左記のコースを訪問しました。

- 探訪のコース
- 大宮志神社(大宮町)―縁城寺(峰山町)―奈具神社(赤栄町)―竹野神社、神明山古墳(丹後町)―嶋見神社(網野町)―大呂七又伝説の里(峰山町)―比沼麻茶齋神社(峰山町)

わたしたちの住むこの丹後は、もと丹波の国でした。いすからおいて一、二六〇年前の和銅六年に加佐、手謝、中、竹野、熊野の五郡を、大和の政權がこの丹後を懐柔する政策として、強大な力をもちつた丹後の勢力を細分することを目的に丹波の國に引きつけて丹後の國をつくりました。

「このように、丹後地方は古くから大陸との交易も南か北大和の勢力に匹敵する一大文化圏を構成していたようです。そこで大和の勢力は、婚姻政策によつて天皇の后に丹後の豪族の娘を迎えたり、丹後の民の心のよりしろであつた豊後大神を伊勢に外宮として引き離してしまつたなどの政策をとつておられるようです。

このように丹後には、古くから伝わる数多くの伝説や、古い歴史が秘められております。調べはじめると興味のつきない土地とも言えます。

今回は、この丹後探訪の第二回として、それより訪問の地ではその地に伝わる歴史や伝説を聞く方と教わるところも多くあつたようです。参加された皆さんにも喜ばれ、好評に終ることができましたので紙面をかりて報告をします。

なお、この史跡めぐりの実施について、いろいろと自動車を提供してくださつた汐浜元さんに紙面をかりてお礼申しあげます。

## 宮津市婦連バレーボール大会に

参加して

小室 三由子

十五年間続いた宮津市婦人バレーボール大会も、今年より市婦バレーボール大会として発足し、その第二回大会が、十月二十八日栗田小学校と水産高校の体育館に於いて開催されました。過去十六回連続出場させて戴いた私ですが、戦つて試合の一つ一つが手に取るように思い出され、今にして思えば、永かっを様でもあり、短かっを様でもあり、感慨一入でございます。私も随分お世話になりました。今日まで続いたこの大会に感謝の気持ちで一パイで

す。バレーボールに生き甲斐を求めた私ですが、時として四十を越えた年齢に抵抗を感じながらも、秋の大会には、ほんとして由良に優勝の栄冠を勝ち取りたいと、チーム全員と昼の仕事の疲れも秘めて、練習を重ねて夜遅くまで猛練習に励みまし

た。今回の試合も、ホニ試合は村中組に二対二で、ホニ試合も津田組に二対二で勝ち進みながら、点数成績の順位に有利、格しくもアンソーン上征進出を阻まれ、無念の涙をのむに至りました。連戦連勝しながらも、チヤンスを逸した事が悔しい、まるで空気がぬけた風船のようになり、張りつめていた緊張感が体からぬけ、茫然と我を忘れる始末でした。

私自身に思うのです。家庭の主婦として誰かが忙しい毎日です。それに田舎で暮らすく変わる社会状態の中で、健康である幸せと、若く保つためのスポーツは裕とりのある時間を作って頂きたい如何ですか。

- 出場選手(略敬称)
- 子 子 子 子 子 子 子 子
  - 泰 鶴 巴 則 美 美 里 昭 初 寿 恵
  - 恒 西 田 坂 本 崎 田 谷 下 恒 室 三
  - 玉 中 中 千 藤 川 吉 木 山 中 小



### 思い出の先生たち 中西茂

私が由良尋常高等小学校に入學したのは、大正六年四月であった。(当時幼稚園がなかった) 当時の校長先生は、背の低いが威厳のある黒田立止さんで、教頭は、ひげの生えた由良の人、中田大一郎先生であった。(後に自治市教育長をした)

その当時の小学生の服装は、皆紺色の筒袖で、天長節とか紀元節などの祭日には、上級生は袴を穿けた。履物は草履で、雨の日には、かさか高下駄を穿いた。後に地下袋が流行り、しまいに皆ゴム靴を履くようになった。雪の日には首巻(くる巻き)を、いってネルを二米平方位に切つたものを頭からかぶり、小さい子は丸マのようにつまみききつけて着た。マントなど余程金持ちの家の子でない限り買ってもらえなかった。

一年生の時は中西きり先生であった。いつまでも年をとらぬ美しい先生で、教える方もなかなか上手であった。二年生の時は新宮仙次さんという、新宮氏系流で、面白い先生で、机の上に乗って、右手をあげ、左手を前にひろげて大佛さんなど言って笑せた。

三年生の時は相模郡の山田村から森田先生という男の先生が赴入して来た。物凄く暴力先生で、男児をなぐらわれないものはなく、中にはおしちいどいて、子供の頬に白い白墨を塗つたり、上林喜太郎君など今ヨークで頭に筋を引かれ、できものが一列に並んで出来た。女の子でも谷口さめなひん投げられりした。

四年生になると、山田先生という色黒いが、小柄で髪髭のある十八才の先生を受け持った。だが、成安女子学院に入学の巨魁に、退めて行かされた。結婚式に依頼されて、上林君と一語に祝電を打った。

五年、六年、高等一年、高等二年の時は、校長の竹内龜吉先生

に受け持った。頂いた。立派な先生であった。私達はこの先生に憧れを抱くところが多い。この校長先生の時に小学校が全焼するという災難に遭遇した。グラウンドでの朝礼で左手を纏帯した校長が青い顔をして「私の校長の時にごんごんことになって申し訳がな。御冥影に安全に奉安することできました。二年程かかるが府下の立派な校舎を建てていささけるから御安心願いたい」と言われ、それからしばらくはお寺で、海岸で勉強した。

以上が私達が教えて貰った先生であるが、その他にも次のような先生を思い出す。

- 大森秋子先生(私達より一級上の生徒が担任して貰ったが、田中忠明、柳岡重左衛門等のいた頃の事が、大森デンバラと
- いって先生を思い出した。その時生徒の「ゆき」ちゃんである。
- 小室綾子先生、輪の所にちやんとしたまきがあったら、思う
- うが、美しい若い先生で、やはり一級上の子か担任された。
- 折電郵便局長の母上である。
- 藤原天竜先生(松原寺住職、大垣憲太郎校長先生、木楠
- 先生、木楠敏子先生、青宮修先生(師範を卒業後すぐ来
- られ小柄な先生、黒田格先生、内田政江先生(現黒田)
- (藤原天竜先生以下は私が卒業後の由良の先生である。これら
- の方を思い出すと、なつかしくてもやまない。)

尚参考までに申し上げます。この御遺稿は、死去される三ヶ月前にしたためられたのです。ここに謹んで御哀福をお祈り致します。

五十四、三

### 由良地区

#### 申し合わせ事項

- 仏事の簡素化
- 一、葬式、忌明け、初七日の行事は葬式当日のみとする
  - 二、食事の当日食への配慮を要する
  - 三、焼物は砂桶二袋を限度とする

- 見舞返し
- 一、見舞返しは自粛する

- 時間厳守
- 一、会合の時刻におくれないようにする
  - 二、欠席、遅刻は必ず事前に届け出る
  - 三、遅刻にはお詫言を要する

五十四年二月付のヒラ

「自治市」を考ふる市民の会」に於いて、

- 自治市自治連絡協議会。自治市老人クラブ連絡協議会
- 自治市婦人団体連絡協議会。自治市公民館連絡協議会
- (各市区校同資料)として

(3) 弊会に属するの有り方を考え、資源を大切にし、

右に解さぬので、御協力願います。